（**WG**5）教育とデジタル変革

【教育】
COVID-19のパンデミックはSDG4（持続可能な開発目標の4番目：質の高い教育をみんなに）を後退させた一方で、オンライン教育技術に、かつてないほどの進歩をもたらしました。辺境地域、紛争地域、被災地域、男女不平等国家を含む様々な国家間において、協力しあい、知識を共有することによって、教育は、G20の目標である「一つの地球、一つの家族、一つの未来」をサポートすることができます。　教育は、学習者中心、包括的であるべきで、また、文化的多様性や、現地語、学習能力を尊重した、近年の人間中心の革新によって改善されるべきです。効果的なモニタリングとフィードバックの循環を備えた教育が、手頃な価格で、誰一人取り残さず全ての人に行き届かなければなりません。
C20　　インド議長は、「教育は、内面と外側に光を広げ、気付きを植え付け、学生と自国、世界、人間や他の生物、自然、神との間にある深い絆を強めるものでなければなりません。」と述べています。　　このワーキング・グループは、私たちの世界遺産である叡智を研究し、多様性や古来の哲学を理解して、調和と思いやりをはぐくむ本質的な共通点を抽出し、それを教育に取り入れます。このワーキング・グループは、低開発国、発展途上国、経済新興国にとって、公平で利用しやすい技能の開発と教育のモデル、また、資金調達法について、研究、提案します。

【デジタル変革】

このワーキング・グループでは、デジタル化が社会や環境に与える影響について審議します。Digital　Indiaから学んだDigital　Worldモデルは、社会経済的変革をもたらし、サービスのデジタル配信、デジタルインフラ構築、デジタルリテラシーを通した世界の貧困との戦いを支援することができます。経済のデジタル化、デジタルID、デジタル決済は、持続可能な労働機会を提供し、サービスが受益者に直接届くようにすることができます。相互接続された世界のためのデジタル変革は、包括的でアクセスしやすく、デジタルによる分断と不平等を減らし、子供の保護に配慮し、障害者支援のためのアクセスを提供する必要があります。

オープンで相互運用可能な原則に基づいた包含的なデジタルアーキテクチャは、デジタルの境界を再定義し、グローバルに拡張することができます。デジタル変革は、文化の促進と保存、暮らしの中での機会の提供、障害者、健康、電子政府、サービスへの対応を可能にします。このワーキング・グループでは、デジタル化のモデル、デジタル測定ツールの使用、開発のためのデータ収集、デジタルワールドのための新技術などを研究する予定です。教育とデジタルトランスフォーメーションにおける政策提言では、グローバルな課題、ベストプラクティス、資金調達、世界レベルと国レベルでの政策変更と成果への変換を測定することを検討します。

インドコーディネーター　Dr. P. Venkat Rangan (edt.c20india@gmail.com); Dr. Prema Nedungadi (prema@amrita.edu)

国際コーディネーター　Dr. Joost Monks, Humanitarian Quality Assurance Initiative, Switzerland (jmonks@hqai.org)

Webサイトリンク:
https://c20.amma.org/edt